



あなたは今年をどんな年にする!?

今年、東日本大震災発生から10年となる節目の年です。多くの人命が失われ、深い爪痕を残した災害から、私たちは備え（準備）の大切さを学びました。昨年



に引き続き、コロナ禍は、まだどう進むか見通せませんが、このことから、変化や工夫をすることの大切さを学びました。こんな時代に「鬼滅の刃」が大きな話題となったことは偶然なのでしょう。昔から鬼には、疫病など人類への脅威を表している側面があると言われてきました。「With コロナ」と言われるように、ウイルスのような脅威でさえ、共に地球上に存在するもの

として、付き合い方を考えるべきときです。人間（自分）にとって不都合なものを、排除し、消滅させようとしてきた勝手な振る舞いが、いま、こうして人間（自分）を苦しめることにつながっているのではないか・・・そう考えると、私たちの日常の生き方（人やものとの付き合い方）を振り返り、変わることの必要性を学んでいるような気がします。「泣いた赤鬼」は、国語や道徳の教材としてよく使われるお話です。赤鬼から、私たちは、ほんとうに大切なこと（人、もの）は何かを学ぶことができます。今年、あなたに起こるであろう様々な出来事から、あなたは何を学ぶでしょうか。

今年が丑（うし）年



牛は、昔から人間の生活に欠かせない動物でした。黙々と働く姿が「誠実さ」を表していると言われ、身近にいる縁起のいい動物だと思われていたようです。

学問の神様といわれる菅原道真（すがわらのみちざね）を祀っている天満宮には、丑の像が置かれています。「菅原道真は丑年生まれ」「菅原道真の遺体を運んでいるときに牛が動かなくなったので、そこに埋葬した」など、牛と菅原道真の間には、様々

な関係があるそうです。ちなみに、その牛が動かなくなった場所が太宰府天満宮だとか。黙々と働く牛の様子は、勤勉な菅原道真と通ずるものもあり、牛を神の使いとして祀っているそうです。祀られている牛は、どの牛も座り込んでいるそうですよ。



受験生のパワースポット 太宰府天満宮の牛

十二支についての物語では、神様のところへ元旦にあいさつに行こうとする動物たちの様子が描かれています。牛は、自分が歩くのが遅いことを知っていたので、誰よりも早く、前の晩のまだ暗いうちに出発し、2番目に到着したと伝えられています。1番目に到着したのは、子（ねずみ）。子（ねずみ）は、牛の背中に乗ってやってきて、神様の御殿の門の扉が開いたとたんに飛び降りて1番目になり、結果、牛は2番目になったと書かれています。私は、この牛の健気（けなげ）さが好きなのです。物語ではありますが、自分を知り、できる努力を重ねる牛に学ぶことは多いと思います。

このようなことから、丑年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年だと言われています。慌てて結果を求めず、結果につながる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期とされています。黙々と目の前のやるべきことをこなすことが将来に向けて大切だ、と考えるのがよいようです。



苦しい時、辛い時、先が見えない時、焦らずにじっくりと、コツコツと着実に物事を進めましょう。楽しいとき、うれしいとき、浮足立つことなく、どっしりと構えて過ごしましょう。

いずれにしても、今年をどんな年にするかは、あなたの心構え次第です。仲間とともに笑顔でいられますように。本年もどうぞよろしく願いいたします。

<おしらせ> 今週1月9・10日に、「第19回学びの共同体研究大会」といったものが開催されます。「協同的な学び」について全国の先生方が集まって研究する大会です。そこで、東和中の学習の様子や「TOWA7」のことを全国の先生方に報告するよう推薦されました。東和生の学ぶ姿をお伝えしてきます。その後は、全国の先生方からご意見ご感想をいただき、本校の学びの質の向上に生かしたいと思えます。

